

看護闘争ニュース

NO. 78

2006年 8月10日

日本医労連第56回定期大会

看護師ふやせ 確信広げさらに大きな運動に

日本医労連の定期大会が、7月20～22日、神奈川県箱根町で開催され、**1,500**名が参加し、熱心に討議が行なわれました。看護師等の大幅増員、2年課程通信制など看護闘争に関わる課題では、「看護師メッセージ運動」から「看護職員の労働実態調査」に引き継がれながら、看護師不足や看護現場の過酷な実態を浮き彫りにし、社会問題化してきた各地の奮闘が、多くの代議委員から報告されました。2年課程通信制についても、私たちが運動でつくりあげ、支援を広げていく中で、今年初めての国家試験で合格した仲間の報告が、大会参加者から大きな拍手が送られました。



広島県医労連 亀井代議員

看護の日ナースウェアでは、150人で街頭宣伝・デモを実施。自治体キャラバンでは23自治体を訪問し、2自治体が国への意見書採択、さらに24病院を訪問し、診療報酬や看護師不足問題で懇談した。

運動はやればやるほど、運動は広がり確信を広げる。しっかり訴えれば組合員が応えてくれることを確信した。現在は、単組が宣伝場所を設定し、地域宣伝の幅を拡大し、県内の隅々まで運動を広げようと奮闘している。



岡山県医労連 岡島代議員

県の看護闘争委員長を行なっている。需給見通しでは、策定後の手を緩めず県を追及中。8月11日にも対県交渉を予定している。10回の夜勤やニアミスの減らない実態など、看護師不足を訴え、「7対1」が実現する見通しへの改善を求めている。ナースウェアは秋に50人、春の看護の日に230人が参加し、署名は700筆、1400筆を集約した。

「看護師が輝くために」のDVDを作成。2年課程通信制では、15日の特別休暇を有休で保障させた。



千葉県医労連 佐藤代議員

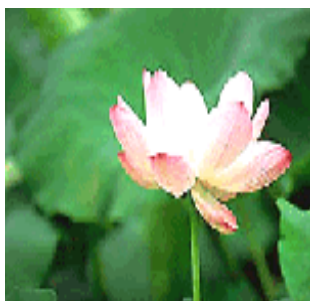
千葉でも木更津に2年課程通信制の学校ができる。説明会の案内を未加盟の病院に出したが、100名を超えて参加申し込みが殺到。

県立病院では100名の看護師を募集、確保できない施設は病棟閉鎖などが起きている。10.27集会は重要。

全厚労 茂原代議員

増員闘争と地域医療を守る運動を連動して行なうことが重要。過疎地や農村部では、医師・看護師不足の影響が大きい。医師の研修医制度で、山間地の医師が引き上げ、地域に病院を残すことができなくなっている。制度を変えるたびに状況が悪化している。

看護師の退職が止められない。看護職自身が悩んでいる。増員署名の提起には、全厚労中央委員会あげて取り組む決意で、目標を20万筆に設定し、5万8000筆を現在集約中。



全医労 淀代議員

昨年9日以上夜勤が26%になり、機構との交渉で、欠員補充や4月の見込み採用を確約させた。しかし、退職が続出し機構にも危機感が。

8月概算要求時期に向け、全支部に緊急増員要求書の提出を指示。産別全体での絵になる増員署名行動や宣伝物も重要。署名は20万筆を目標に奮闘する。



岩手県医労連 菊池代議員

第6次看護職員需給見通しでは、透析部門の人員基準がない。人員配置基準の明確化の方針を。学習交流の場も設定して欲しい。

透析部門は、ほとんどが外来の位置づけで、日直や当直、1夜2勤務の職場もある。看護部ではなく、独立した部門としての扱いを。

京都医労連 勝野代議員

「看護職員労働実態調査」は、全国平均に比べ深刻な実態だった。新聞報道され、マスコミの問い合わせに元気ついた。昨年、「看護の心をつなぐ京都フォーラム」を開催。続いて、単組でも「職場フォーラム」を開催。京都で独自のポスターやグッズを作成。宣伝行動も人が増え楽しい取り組みになっている。